

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 社会福祉士国家試験対策ゼミ		授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習)				
授業担当者 名地 宙	実務経験	<p>・病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談、サービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。</p> <p>・若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、就労定着支援業務を担当。</p>				
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 専攻科1年・後期	(<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択)			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>1 担当の国家試験受験科目の内容を把握する</p> <p>2 国家試験に合格するための得点力を身に付ける</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>担当科目の内容を理解できるよう要点を絞ったプリントを使い解説し、過去問題を解答させ、その解説を行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>1 過去問題が解けるようになる</p>						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)						
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none; vertical-align: top;"> <p>1. 就労支援サービス</p> <p>2. 就労支援サービス</p> <p>3. 過去問等演習</p> <p>4. 就労支援サービス</p> <p>5. 過去問等演習</p> <p>6. 児童・家庭福祉論</p> <p>7. 児童・家庭福祉論</p> <p>8. 過去問等演習</p> <p>9. 児童・家庭福祉論</p> <p>10. 児童・家庭福祉論</p> <p>11. 過去問等演習</p> <p>12. 児童・家庭福祉論</p> <p>13. 過去問等演習</p> <p>14. 福祉サービスの組織と経営</p> <p>15. 福祉サービスの組織と経営</p> </td> <td style="width: 50%; border: none; vertical-align: top;"> <p>16. 過去問等演習</p> <p>17. 福祉サービスの組織と経営</p> <p>18. 福祉サービスの組織と経営</p> <p>19. 過去問等演習</p> <p>20. 地域福祉論</p> <p>21. 地域福祉論</p> <p>22. 過去問等演習</p> <p>23. 地域福祉論</p> <p>24. 地域福祉論</p> <p>25. 過去問等演習</p> <p>26. 公的扶助論</p> <p>27. 過去問等演習</p> <p>28. 公的扶助論</p> <p>29. 公的扶助論</p> <p>30. 過去問等演習</p> <p>期末考査</p> </td> </tr> </table>					<p>1. 就労支援サービス</p> <p>2. 就労支援サービス</p> <p>3. 過去問等演習</p> <p>4. 就労支援サービス</p> <p>5. 過去問等演習</p> <p>6. 児童・家庭福祉論</p> <p>7. 児童・家庭福祉論</p> <p>8. 過去問等演習</p> <p>9. 児童・家庭福祉論</p> <p>10. 児童・家庭福祉論</p> <p>11. 過去問等演習</p> <p>12. 児童・家庭福祉論</p> <p>13. 過去問等演習</p> <p>14. 福祉サービスの組織と経営</p> <p>15. 福祉サービスの組織と経営</p>	<p>16. 過去問等演習</p> <p>17. 福祉サービスの組織と経営</p> <p>18. 福祉サービスの組織と経営</p> <p>19. 過去問等演習</p> <p>20. 地域福祉論</p> <p>21. 地域福祉論</p> <p>22. 過去問等演習</p> <p>23. 地域福祉論</p> <p>24. 地域福祉論</p> <p>25. 過去問等演習</p> <p>26. 公的扶助論</p> <p>27. 過去問等演習</p> <p>28. 公的扶助論</p> <p>29. 公的扶助論</p> <p>30. 過去問等演習</p> <p>期末考査</p>
<p>1. 就労支援サービス</p> <p>2. 就労支援サービス</p> <p>3. 過去問等演習</p> <p>4. 就労支援サービス</p> <p>5. 過去問等演習</p> <p>6. 児童・家庭福祉論</p> <p>7. 児童・家庭福祉論</p> <p>8. 過去問等演習</p> <p>9. 児童・家庭福祉論</p> <p>10. 児童・家庭福祉論</p> <p>11. 過去問等演習</p> <p>12. 児童・家庭福祉論</p> <p>13. 過去問等演習</p> <p>14. 福祉サービスの組織と経営</p> <p>15. 福祉サービスの組織と経営</p>	<p>16. 過去問等演習</p> <p>17. 福祉サービスの組織と経営</p> <p>18. 福祉サービスの組織と経営</p> <p>19. 過去問等演習</p> <p>20. 地域福祉論</p> <p>21. 地域福祉論</p> <p>22. 過去問等演習</p> <p>23. 地域福祉論</p> <p>24. 地域福祉論</p> <p>25. 過去問等演習</p> <p>26. 公的扶助論</p> <p>27. 過去問等演習</p> <p>28. 公的扶助論</p> <p>29. 公的扶助論</p> <p>30. 過去問等演習</p> <p>期末考査</p>					
[使用テキスト・参考文献]		<p>①『社会福祉士国家試験のためのレビューブック』、発行：(株)メデイック・メデイア ISBN978-4-89632-763-2</p> <p>②『クエスチョンバンク 社会福祉士国家試験問題解説』発行：メデイック・メデイア</p>				

	<p>ISBN978-4-89632-764-9 ③『目で見て覚える 社会福祉士国試ナビ 2021』 発行：中央法規 ISBN978-4-8058-5881-3</p>
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) <ul style="list-style-type: none"> ・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する (10%) ・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する (5%)

授 業 概 要

(社会福祉専攻科)

授業科目名 国家試験対策ゼミ (立花担当部分)		授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 立花 匡真		実務経験	
授業の回数 63回	時間数 (単位数) 126時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・後期	(<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>1 担当の国家試験受験科目の内容を把握する</p> <p>2 国家試験に合格するための得点力を身に付ける</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>担当科目の内容を理解できるよう要点を絞ったプリントを使い解説し、過去問題を解答させ、その解説を行う</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>1 過去問題が解けるようになる</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p>			
コマ数	内 容	コマ数	内 容
30	社会保障⑩	47	権利擁護と成年後見制度⑭
31	権利擁護と成年後見制度⑩	48	人体の構造と機能及び疾病⑪
32	人体の構造と機能及び疾病⑦	49	社会理論と社会システム⑮
33	社会理論と社会システム⑪	50	社会保障⑮
34	社会保障⑪	51	権利擁護と成年後見制度⑮
35	権利擁護と成年後見制度⑪	52	社会理論と社会システム⑯
36	人体の構造と機能及び疾病⑧	53	社会保障⑯
37	社会理論と社会システム⑫	54	権利擁護と成年後見制度⑯
38	社会保障⑫	55	社会理論と社会システム⑰
39	権利擁護と成年後見制度⑫	56	権利擁護と成年後見制度⑰
40	人体の構造と機能及び疾病⑨	57	問題演習Ⅰ
41	社会理論と社会システム⑬	58	問題演習Ⅱ
42	社会保障⑬	59	問題演習Ⅲ
43	権利擁護と成年後見制度⑬	60	問題演習Ⅳ
44	人体の構造と機能及び疾病⑩	61	問題演習Ⅴ
45	社会理論と社会システム⑭	62	問題演習Ⅵ
46	社会保障⑭	63	期末試験
[使用テキスト・参考文献]		レビューブック	
[単位認定の方法及び基準]		<p>・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <p>1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</p> <p>2. 平常点(15%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する。(10%) 	

授 業 概 要

(社会福祉専攻科)

授業科目名 更生保護制度		授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 前原 良彦		実務経験	なし
授業担当者		実務経験	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年・後期	(<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>更生保護制度の基礎を踏まえたうえで、更生保護制度の意義と目的などに関する基礎的事項を分野横断的、体系的に学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>更生保護制度に関する基本知識を理解し、適切に説明、運用ができるようになる。</p> <p>そのため、を15回の授業の中で、1回につき1～2の重要ポイントをつかみ、自分のものとする。C-learning小テスト等を通して定着。また映像資料を15回に分けて、鑑賞し、更生保護の現場を知り、具体例を知り、将来の援助の在り方をつかむ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 更生保護制度に関する基本知識を理解し適切に説明できる。 2. 更生保護制度を具体的に理解し、その特徴を考察できる。 3. 実際に更生保護制度を運用できる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <p>第1回 刑事司法の中の更生保護の歴史 更生保護法のできるまで</p> <p>第2回 更生保護とは？更生保護の対象 保護観察の2つの機能</p> <p>第3回 補導援護の方法</p> <p>第4回 非行・犯罪臨床 少年非行</p> <p>第5回 犯罪臨床(刑事司法における犯罪者<成人>に対する手続き)</p> <p>第6回 仮釈放・仮出場</p> <p>第7回 仮釈放・少年院からの仮退院・婦人補導院からの仮退院</p> <p>第8回 仮釈放等の手続き・収容中の者に対する生活環境の調整・法定期間経過の通告</p> <p>第9回 36条調査・25条調査等・仮釈放等の許可基準</p> <p>第10回 保護観察…保護観察の目的・保護観察の方法・保護観察対象者5種類</p> <p>第11回 保護観察の方法—指導監督と補導援護</p> <p>保護観察の方法—遵守事項、保護観察対象者の種類とその特徴、その終了時の状況…保護観察処分少年(1号観察)、少年院仮退院者(2号観察)、仮釈放者(3号観察)、保護観察付執行猶予者(4号観察)、婦人補導院仮退院者(5号観察)</p>			

- 第12回 更生保護制度の担い手 保護観察官・協力雇用主
第13回 更生保護制度の担い手 保護司
第14回 更生保護施設
第15回 医療観察制度 後期試験

[使用テキスト・参考文献]

- 更生保護制度 渡辺 信英 著 南窓社 ISBN978-4-8165-0400-6
社会福祉士国家試験のためのレビューブック2020 医学評論社 ISBN978-4-89632-763-2
社会福祉士国試ナビ2020 中央法規 ISBN978-4-8058-5881-3

[単位認定の方法及び基準]

- ・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。
1. 考查点(85%)
到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。
 2. 平常点(15%)
 - ・授業への参加状況では、C-learningの小テスト・ドリル・アンケート等を利用し、発言回数複数回である点を評価する。(5%)
 - ・提出課題(C-learningの小テスト・ドリル・アンケート等を利用)において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。

授 業 概 要

(社会福祉専攻科)

授業科目名 国試対策ゼミ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 川本 公代		実務経験 訪問介護員 4年 ディスクゴルフ指導員 3年 レクリエーション・インストラクター19年	
授業の回数 31回	時間数 (単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・後期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・高齢者に対する支援と介護保険制度の基礎を再確認し、応用力をつける。 ・相談援助の基盤と専門職・相談援助の理論と方法について復習し、さらに応用力をつける。 [授業全体の内容の概要] ・各教科の基本的事項を復習する。 ・問題にチャレンジして答え合わせをしながら正しい解答を覚える。 ・繰り返し問題を解いて解き方を習得する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・模擬試験に結果を出す。 ・過去問題・模擬問題を確実に解くことができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 介護保険復習 2. 介護保険復習 3. 介護過程1 4. 介護過程2 5. 老人福祉法1 6. 老人福祉法2 7. 高齢者雇用安定法・高齢社会対策基本法 8. 高齢者住まい法・バリアフリー法 9. 高齢者虐待防止法・高齢者の医療の確保に関する法律 10. 高齢社会白書・生活基礎調査 復習 11. 高齢者に対する支援と介護保険制度 模擬試験 問題答練・解説 12. 高齢者に対する支援と介護保険制度 過去問 題・模擬問題答練・解説 13. 高齢者に対する支援と介護保険制度 過去問 題・模擬問題答練・解説 14. 高齢者に対する支援と介護保険制度 過去問 題・模擬問題答練・解説 15. 高齢者に対する支援と介護保険制度 過去問 題・模擬問題答練・解説 16. 高齢者に対する支援と介護保険制度 過去問 題・模擬問題答練・解説 17. 相談援助の基盤と専門職 過去問題・模擬問題答 練・解説		18. 相談援助の基盤と専門職 過去問題・模擬問題答 練・解説 19. 相談援助の基盤と専門職 過去問題・模擬問題答 練・解説 20. 相談援助の基盤と専門職 過去問題・模擬問題答 練・解説 21. 相談援助の理論と方法 過去問題・模擬問題答 練・解説 22. 相談援助の理論と方法 過去問題・模擬問題答 練・解説 23. 相談援助の理論と方法 過去問題・模擬問題答 練・解説 24. 相談援助の理論と方法 過去問題・模擬問題答 練・解説 25. 相談援助の理論と方法 過去問題・模擬問題答練・ 解説 26. 相談援助の理論と方法 過去問題・模擬問題答 練・解説 27. 相談援助の理論と方法 過去問題・模擬問題答 練・解説 28. 重要事項復習 29. 重要事項復習 30. 重要事項復習 31. 期末考査	

[使用テキスト・参考文献]	社会福祉士国試のためのビューブック 2021 模擬試験過去問題
[単位認定の方法及び基準]	<ul style="list-style-type: none"> ・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 2. 平常点(15%) ・時間内の模擬テストにおいて、到達目標の7割以上に達している点を評価する (15%)。